

旧桜宮公会堂・泉布観・造幣局

28

文明開化の音が聞こえる文化遺産の宝庫

明治政府は近代国家の仲間入りを果たすべく、大阪に造幣寮（現在の造幣局）を置きました。貨幣製造という近代産業が運んだ欧米の文化は、今もエリア一帯にモダンな香りを残しています。



ギリシア建築を思わせる円柱とアーチ窓が特徴的。国指定の重要文化財

正面玄関は旧造幣寮から生まれ変わった旧桜宮公会堂

旧桜宮公会堂は、1935（昭和10）年に明治天皇記念館として建設されました。正面玄関は1871（明治4）年に建てられた「旧造幣寮鑄造所正面玄関」からの移築です。

戦後、公会堂や図書館として使われた後、2007年以降は閉鎖されていましたが、古い設計図を手掛かりに内部や日本庭園を再生・復元。現在は結婚式場・レストランとして、歴史的建築が人々の幸せの記憶に残る場所に息を吹き返しました。

旧桜宮公会堂

▶天満橋 1-1-1 ☎06-6881-3330
11:00～18:00（火・水曜は～15:30、土日祝 10:00～20:00） 第2水曜休

明治天皇が命名した「貨幣の館」

泉布観は、旧造幣寮が創業した1871（明治4）年に応接所として建てられました。設計は旧造幣寮とともに、明治初期の日本の西洋建築を数多く手掛けたトーマス・J・ウォートルス。泉布は貨幣、観は館の意味。明治天皇が行幸した際に命名されました。



優美なベランダ・コロニアル様式

泉布観（せんぷかん）

▶天満橋 1-1-1 ☎06-4301-7285（大阪市総合コールセンター なにわコール）
外観見学 10:00～16:00（内部の一般公開は毎年3月頃に開催） 第2水曜・年末年始休

あの五代友厚も尽力した金融都市・大阪再生のシンボル

2021年に創業150周年を迎えた造幣局。明治政府は1871（明治4）年、幕末の乱れた貨幣制度を立て直し、先進国に追いつこうと造幣事業を急ぎました。大阪の発展に尽力した五代友厚はこの分野で進んでいた英国が設立した香港造幣局の機械を購入。「天下の台所」と呼ばれた金融都市・大阪を再生しようと考えたのです。

豊かな水が使える大川沿いで貨幣製造は大成功。年間約10億枚製造される国内貨幣のうち約5億枚を大阪本局で製造。偽造防止のために施される技術は世界トップクラスです。記念貨幣や勲章・褒章、オリンピックメダルなども製造。貨幣製造の様子が隣接する博物館と併せて見学できます。

造幣局・造幣博物館

▶天満 1-1-79 ☎06-6351-6150 造幣局（工場見学）事前予約制（詳細はHPを確認）／造幣博物館 9:00～16:45（最終入館 16:00）
第3水曜、桜の通り抜け期間（4月の一週間）は休館 見学無料



旧造幣寮正面。左奥、煉瓦造りの造幣博物館は、1911（明治44）年に建造の火力発電所の建物を改装したもの



MINI COLUMN 造幣の父がきっかけ 明治から続く春の風物詩

大阪の春に欠かせない風物詩「桜の通り抜け」。1883（明治16）年、「造幣の父」と呼ばれた当時の造幣局長・遠藤謹助が「局員だけの花見ではもったいない！大阪市民とともに楽しもう」と発案しました。約560mの沿道いっぱいには続く桜は、もとは江戸時代の大名屋敷に植えられていたもの。造幣局が場所ごと引き継ぎ、ずっと大切に守っています。



美しいピンク色のトンネルが続く

時代を築いたヒーローを追いかけて

HORIKAWA / TAKIGAWA 堀川・滝川

夏には天神祭の華やぎで色づく大川沿い。文明開化の息吹が今も感じられ、天満へと続く寺町通には幕末の人々に影響を与えたヒーローたちの墓所もある。江戸後期、幕末、明治維新へと続く歴史の足跡を辿ってみよう。



AREA MAP



34 池上雪枝感化院跡

民家の角に建つ石碑は、日本初の感化院の場所を示す。明治の近代化で大阪は変貌を遂げるが、劣悪な労働条件と低賃金で酷使される若年労働者と予備軍である少年少女の非行化は深刻な問題となった。池上雪枝（1826～91）は若者たちが「集まり、仕事を学ぶ場所」としての少年感化院を1883（明治16）年に設立、授産場も設ける。ステッキや洋傘、石鹸などを製造して職業訓練を施し、送り出した。感化院は池上の死後に閉鎖されたが、事業の継承者は各地に現れた。「弱い人間も職業を覚え、互いに助け合うことが社会発展の近道」だと考え、行動する女性が明治の大阪ですでに活躍していた。

▶北区松ヶ枝町 3-20

35 緒方洪庵の墓

日本近代医学の祖・緒方洪庵は適塾の創始者。門人に福沢諭吉らを輩出し、のちに大阪大学医学部へと発展。師・中天津（なかてんゆう）を慕って同じ龍海寺に建てた墓の傍には、刺客に襲われて亡くなった弟子・大村益次郎の、その際に切断した右足が遺言により葬られる。

▶同心 1-3-1 龍海寺内

36 大塩平八郎の墓

成正寺（じょうしょうじ）は大塩家の菩提寺。江戸時代、幕府に反乱を起こした大塩平八郎と息子・格之助の墓を設けることは禁止されたが、明治期に大塩を慕う門人らが造営した。

▶末広町 1-7 成正寺内

37 山片蟠桃墓所

山片蟠桃は江戸時代を代表する町人学者。蟠桃は「番頭」をもじったもの。質屋の番頭をしながら懷徳堂で学び、儒学や天文学、蘭学などに通じた。大坂の町人らしい精神を学問に昇華、自由で合理的な考えを貫いた。

▶与力町 2-5 善導寺門前

※団体の際は要問合せ（☎06-6351-1881）

29 大阪アメニティパーク（OAP）

2021年で開業25周年。複合ビル、帝国ホテル大阪、高層集合住宅が集まり、春は大川沿いの桜、夏には天神祭の奉納花火と、水都大阪の絶景が楽しめる。OAPタワー玄関と大川沿いの東側には、かつての三菱マテリアル製錬所の門柱がそのまま残る。

▶天満橋 1-8-30

30 源八橋

橋が1936（昭和11）年に架かるまで、唯一の交通手段は「源八渡し」という船の行き来。毛馬生まれの俳人・与謝蕪村も利用したことから、欄干に「源八をわたりて梅のあるじかな」との句が刻まれている。

▶天満橋 2～中野町 4

31 日羅公之碑

日羅は『日本書紀』に登場する6世紀の人。大和朝廷から朝鮮半島の百濟との親和を図るべく派遣されて活躍したが、最後は百濟人に二重スパイ容疑で暗殺された。国益の犠牲となった高官を偲び、天皇が遺体を埋葬した。

▶天満橋 2-2-33 毛馬桜之宮公園内

32 大塩の乱槐跡

困窮する庶民のために立ち上がった大塩平八郎。1837（天保8）年の決起後、大砲1発目は屋敷向かいの与力宅裏庭にある樹齢200年超の槐の木に撃ち込まれた。

▶天満 1-25

33 川崎東照宮跡

大坂夏の陣で豊臣陣営が敗れた後に建立。豊臣信仰が根付く大坂の状況を払拭するため、徳川家ゆかりの東照宮を建てたといわれる。明治初期に廃絶された。

▶天満 1-24-15 滝川小学校前